



# Aichi Art Brut Exhibition 10th

あいちアール・ブリュット展 10周年記念誌





## 目 次

- P1 はじめに
- P2 あいちアール・ブリュット展 10年間の軌跡
- P8 あいちアール・ブリュット展 展示作者・作品
- P12 あいちアール・ブリュット展 10周年記念事業
- P24 企業連携(アート雇用) ～絵を描くことを仕事に～
- P28 あいちアール・ブリュット × アティックアート連携事業
- P31 出前講座
- P33 愛知県障害者芸術文化活動普及支援事業
- P35 あいちアール・ブリュットの軌跡(年表)
- P36 実行委員会

# はじめに

## あいちアール・ブリュット展 10周年記念誌の発行に寄せて

2014年10月に初めて開催した「あいちアール・ブリュット展」が、10周年の節目を迎えることができました。これもひとえに、「あいちアール・ブリュット」の取組に御理解と御支援をいただいた関係者の皆様のお力添えの賜物であり、深く感謝の意を表します。

そして、「あいちアール・ブリュット展」に素晴らしい作品の数々を出展いただきました作者の皆様に御礼を申し上げます。これまで、多くの皆様から応募いただいた作品を拝見してきましたが、その個性豊かな作品に毎年感銘を受けております。皆様の作品無しには「あいちアール・ブリュット展」は成り立ちません。心より感謝申し上げます。

愛知県では、芸術・文化活動を通して、障害のある方の社会参加と障害への理解促進を図るため、公募作品展「あいちアール・ブリュット展」を、2014年度から開催しています。2016年度には「第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会」を開催し、2017年度からは作品展と舞台企画で構成する「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」として開催しています。さらに、2019年度からは「あいちアール・ブリュット・サテライト展」を豊川市で開催するなど、「あいちアール・ブリュット」の発信の場を広げてまいりました。

また、一般社団法人アティックアートと連携し、障害のある方のアート作品を原画にしたノベルティグッズの作成や、県内企業の社屋等で作品を展示する「まちなかギャラリー」の開催の他、障害のある方を芸術的な才能により雇用していただくアート雇用にも取り組んでいます。福祉・芸術の分野を超えて障害のある方を応援し、その作品に光を当てる取組は、現在の「あいちアール・ブリュット展」に不可欠なものとなっています。

この度、10周年を記念して、これまでの「あいちアール・ブリュット」の取組を記録に残すため、本誌を発行する運びとなりました。愛知県では、この機会にこれまでの取組を振り返るだけでなく、その成果を継承して、障害のある方の芸術・文化活動をより一層応援してまいります。今後とも、皆様の一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月



愛知県知事  
大村秀章

## あいちアール・ブリュット展のあゆみ

### あいちアール・ブリュットとは

愛知県内の障害のある方の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

2014  
年度

あいちアール・ブリュット展を初開催。



開会式  
(名古屋市民ギャラリー矢田)



公募作品  
(名古屋市民ギャラリー矢田)

2016  
年度

障害者芸術の全国大会である「第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会」を開催。

過去最大規模の作品数、出演者数、来場者数を記録。

テーマ / 「騒げ、感性」

会期 / 2016年12月9日～11日 (美術・文芸作品展 / 12月3日～11日)

会場 / 名古屋市栄周辺6会場

内容 / 美術・文芸作品展、舞台・ステージ発表、交流イベント等



開会式アトラクション  
(愛知芸術文化センター 愛知県芸術劇場)



紹介作品展  
(愛知芸術文化センター)



全国公募作品展  
(名古屋市民ギャラリー栄)



プロデュース舞台「親指王子」  
(名古屋青少年文化センター)

12月の大会に先立ち、プレイベントとして、県内各地で作品展や講演会を開催。



あいちアール・ブリュット展開会式  
(名古屋市民ギャラリー矢田)



知事と子どもたちの書を使った作品制作  
(春日井市役所)



越境する身体  
西村陽平と出会った子どもたち  
(愛知県立芸術大学 サテライトギャラリー)

特別展示「あいちアール・ブリュット美術館」を初開催。

「あいちアール・ブリュット展」で過去2回優秀作品に選ばれた方の作品を紹介。



あいちアール・ブリュット美術館  
(名古屋市民ギャラリー矢田)

2017  
年度

第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会」の成果を継承し、舞台・ステージ発表を充実させ、「あいちアール・ブリュット障害者アーツ展」として拡大開催。



LOVE & PEACE 2017 (愛 Wish プロジェクト)  
(名古屋東文化小劇場)

2018  
年度

舞台・ステージ発表において、愛知県立芸術大学との共催事業として、誰でも気軽にクラシックを楽しめるコンサートを初開催。



愛知県立芸術大学フレッシュアーティストによる  
木管五重奏とピアノの夕べ  
(名古屋東文化小劇場)

2019年度

あいちアール・ブリュット作品を三河地方の方々にも気軽に御覧いただけるよう「あいちアール・ブリュット・サテライト展」を豊川市桜ヶ丘ミュージアムにおいて初開催。



あいちアール・ブリュット・サテライト展 (豊川市桜ヶ丘ミュージアム)

2020年度

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、舞台・ステージ発表を映像作品として「あいちアール・ブリュット展」の中で放映。



「とんでもない」[愛 Wish プロジェクト] (名古屋市民ギャラリー矢田)

2021年度

陶芸作品を中心に障害のある方の自立を目指した創作活動などを紹介する、「あいちアール・ブリュット・サテライト展マテリアル～土の声にふれる～」を開催。



あいちアール・ブリュット・サテライト展マテリアル～土の声にふれる～ (愛知県陶磁美術館)

2022年度

国際芸術祭「あいち 2022」連携企画事業として、愛知芸術文化センターにおいて「あいちアール・ブリュット・サテライト展～国際芸術祭連携企画展～」を開催。  
国際芸術祭参加アーティストのこでら よしかず小寺良和、ますやまかずあき升山和明の作品を展示し、作品制作などの映像記録を上映。また、絵を描くことを仕事として活躍する方など、愛知を代表する作家の作品を展示。



展示風景 (愛知芸術文化センター)



小寺良和 展示風景「バクダン」 (愛知芸術文化センター)



升山和明 展示風景「SHIMIZUYA」 (愛知芸術文化センター)

## 10年間の開催状況

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
あいちアール・ブリュット障害者アーツ展 ※1	会期	7日	6日	5日	6日	5日	6日	6日	5日	5日	5日	
	公募点数	835点	415点	551点	670点	670点	673点	666点	747点	755点	637点	
	紹介展示	—	—	8人	18人	32人	38人	53人	45人	49人	49人	
	舞台	—	1日	1日	2日	2日	3日	—	3日	3日	3日	
	トークイベント	—	1回	2回	2回	2回	2回	—	—	—	—	
	来場者	1,297人	1,528人	1,766人	2,662人	2,010人	2,565人	1,718人	1,957人	2,283人	2,451人	
あいちアール・ブリュット・サテライト展 (三河地方)	会期							6日	6日	6日	6日	
	作品数							223点	262点	245点	188点	
	トークイベント							1回	—	—	—	
	来場者							1,183人	694人	975人	918人	
あいちアール・ブリュット・サテライト展 ※2	会期									6日	11日	
	作品数									186点	60点	
	来場者									945人	687人	
あいちアール・ブリュット優秀作品特別展	会期	6日	7日	9日	6日	6日	延期	6日	7日	6日		
	作品数	33点	29点	30点	30点	30点		60点 (2か年分)	30点	30点		
	来場者	1,121人	1,533人	2,400人	1,533人	470人		707人	536人	849人		

※1) 2014、2015年度は「あいちアール・ブリュット展」として開催  
 ※2) 2021年度は「あいちアール・ブリュット・サテライト展マテリアル～土の声にふれる～」、2022年度は「あいちアール・ブリュット・サテライト展～国際芸術祭連携企画展～」、2023年度は「あいちアール・ブリュット・サテライト展(みよし市)」を開催。

# あいちアール・ブリュット展チラシ 10年のあゆみ



2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023



2023 10周年記念美術館



## あいちでのアール・ブリュットに関する これまでの取組などについて、貢献された 専門家や実践者へのインタビュー

かわさき すみお  
**川崎 純夫 氏**

社会福祉法人あいち清光会理事長・障害者支援施設サンフレンド施設長  
一般社団法人愛知県知的障害者福祉協会会長  
一般社団法人愛知県知的障害児者生活サポート協会理事長

「あいちアール・ブリュット展」開催当初から作品展示や運営に携わる他、アート雇用のコーディネートを行うなど「あいちアール・ブリュット」の取組に広く関わる。

「あいちアール・ブリュット展」優秀作品審査員(2016年～2023年)



### (あいちアール・ブリュット展の反響について)

障害のある方たちは表彰をされたことがあまりないので、自分が表現したものが受賞されたりすることで、社会に認められたという体験をすることにより大きな自信につながると思います。

また、自分が生活する上で一つの楽しみにもなり、そういったことが造形活動を通してできればいいなと思っています。

### (「あいちアール・ブリュット」のこれから)

私たちがアール・ブリュット展を始めた15年、20年頃前(※)から比べると、社会の人たちの理解が広まってきたり、いろんな企業の方も障害のある方たちの作品を使ってくれたりと理解が進んだと感じています。これから更に、障害のある方たちが表現できる場やアート活動が広がっていけばいいと思いますし、ゆくゆくは、障害のある方たちの常設の美術館が愛知県にもできたら良いと思っています。また、それに向けて活動していきたいと考えています。

※一般社団法人愛知県知的障害児者生活サポート協会は、2007年から知的障害及び発達障害のある方の作品展「ふれあいアート展」を主催している。

すずき としはる  
**鈴木 敏春 氏**

美術批評 / 特定非営利活動法人愛知アート・コレクティブ代表理事

「あいちアール・ブリュット展」開催当初から作品展示や企画に携わる他、出前講座やサテライト展の立ち上げなど「あいちアール・ブリュット」の取組に広く関わる。

「あいちアール・ブリュット展」優秀作品審査員 (2014年～2023年)



(あいちアール・ブリュットのあゆみについて)

昭和27年、愛知県で初めて特別支援学級が設立された名古屋市立菊井中学校に、川崎昂さんが美術教師として就任し、そこで山本良比古さんと出会い、芸術家として指導された。山本良比古さんの点描画が一時ブームになり、特定非営利活動法人フロール会による「生の芸術フロール展」、その後、一般社団法人愛知県知的障害児者生活サポート協会による「ふれあいアート展」が開催され、それらがあいちアール・ブリュットの始まりのきっかけになりました。

(施設へのアート活動支援について)

あいちアール・ブリュット展と並行して出前講座も行っています。毎年、県内の福祉施設5か所ぐらいを対象に、芸術大学の先生や若手の現代美術の作家の方たちが講師として現場に出向き、アートの指導をすることを長年続けてきました。出前講座を通じて、アート活動が有効だと感じ、独自にアート活動を始めた福祉施設も何か所かあります。

(「あいちアール・ブリュット」のこれから)

アール・ブリュット、障害のある人たちの表現等は、美術の世界を変えていくようなエネルギーを持っているのではと考えています。障害のある人たちを自身の障害から解放していく表現・言葉として、アール・ブリュットはこれからも生きていくと思っています。

やまぐち ひかる  
**山口 光 氏**

認定特定非営利活動法人ポパイ

「あいちアール・ブリュット展」舞台発表の企画・運営を担当



(舞台発表について)

あいちアール・ブリュット展の舞台発表では、障害のある人たちの音楽やダンス、落語など、舞台でのパフォーマンスを観客の皆さんに観ていただくという発表の場です。年齢は高校生からご年配の方まで、個人活動や事業所の取組としてのグループ活動など様々です。

今年参加された方で、ここに来られて嬉しい、たくさんの客席がある舞台で発表できることが嬉しいとおっしゃる方がいました。逆に、ライトや緊張感が苦手な方で舞台に乗りたがらないという方もいらっしゃり、舞台独特の緊張感や刺激はすごく強いんだなと感じました。だから舞台芸術は多様であるのが良いというのが私の感想です。

(アート活動の広がりについて)

障害のある人の芸術活動がどんどん広がっているとか、認知されているとか、注目されるようになっていくという感覚はあります。

(「あいちアール・ブリュット」のこれから)

舞台芸術は、絵画等の展示会と違い演者の方自身が出演するところが大きな特徴であり、出演者と来場者がその場を共有したり、体感することがお互いにとって刺激的だと思っています。舞台芸術は舞台でやるもの、という認識が強いように感じますが、いつも過ごしている場所、カフェ、公園、道端など、どこでもできるということを知ってもらいたいと思います。そして、気軽に企画したり参加したりできる雰囲気づくりもしていけると良いなと思います。



すえまつ

## 末松グニエ モルヴァン 氏

社会福祉法人あいち清光会障害者支援施設サンフレンド

「あいちアール・ブリュット展」作品展の企画・展示計画・運営を担当



### (どんな作品展を目指しているか)

来場者が楽しく作品を鑑賞できるような展示を心がけています。来場者が作品を観るときに、身体を動かして観てまわることができるよう、作品を壁だけに展示するのではなく、中に入って作品を鑑賞できるような展示空間を作りたいと考えています。

### (施設でのアート活動について)

障害者支援施設サンフレンドでは、日中活動として、週に一度アトリエを開催しています。集中して作品を作るグループと、のびのび作品を作るグループがあり、それぞれの適性に合わせてコースの割り振りをしています。水彩絵の具、ポスターマーカー、クレヨン、ボールペン、色紙など、画材を変えて新しい表現にチャレンジしてもらうこともあります。また、いろんな写真をプリントしたファイルを用意して、興味が広がるようにするなど、利用者さんが作品制作にあたり、自由に楽しみながら集中できる環境を整えることを大切にしています。

### (「あいちアール・ブリュット」のこれから)

アール・ブリュットは歴史があり、アートとして評価する指標を持っています。また、アール・ブリュットの作品には、作者の人生経験等が反映されると考えられることから、あいちアール・ブリュットにもっとたくさんの人が参加したら、もっと面白くなると思っています。

なかむら ふみこ

## 中村 史子 氏

元愛知県美術館主任学芸員

「あいちアール・ブリュット展」優秀作品審査員(2017年～2019年)  
国際芸術祭「あいち2022」キュレーター

### (あいちアール・ブリュット展との関わり)

あいちアール・ブリュット展は、審査員として何度かお世話になりました。展覧会などにも何度も足を運ばせていただいて、本当に多くの魅力的な作品と出会えたことが私にとって一番印象深いことです。また、それらを作っている方々と出会えたことが、とても実り多かったと考えています。

### (あいちアール・ブリュット展で印象深いエピソード)

小寺良和さんと升山和明さん、彼ら2名の作品を国際芸術祭「あいち2022」に出展したことが、一番私にとっては思い出深い出来事です。

### (アール・ブリュットの魅力)

作り手さん自身の「これが作りたい」という気持ちであるとか、あるいは作る行為自体がその人のアイデンティティ、その人らしさに直結しているところが、一番大きな魅力かなと思います。

### (「あいちアール・ブリュット」のこれから)

愛知だけではなく、より幅広く県という枠組みにとらわれずに、多くの方々との交流等が、作り手さんあるいは観る側にも生じればいいのかなと思っています。

あいちアール・ブリュット展 展示作者・作品

これまでの「あいちアール・ブリュット展」に出展された方々のうち、「あいちアール・ブリュット展」で複数回優秀作品に選ばれた方や、芸術的な才能により企業に雇用された方の一部を、「あいちアール・ブリュット展」を代表する作者として紹介します。

こでら よしかず  
小寺 良和 (陶芸)

1957年生  
所属：天白ワークス



天白ワークスで30数年前に陶芸と出会い、自己表現手段としても確実に身に就ける。天白ワークスに通い、毎日陶芸をしており、時々々の興味の赴くままにテーマを形にする作り方で、最近は戦争をテーマに「バクダン」シリーズがある。

- ・1999年 公募展「生(いのち)の芸術フロール展」(2008年まで毎年参加) 10年連続入選、大賞2回
- ・2008年 公募展「ふれあいアート展」(第8回と第9回にて名古屋市社会福祉協議会会長賞、第10回に大賞を受賞)
- ・2013年～2018年 ポーダレスアート展
- ・2014年 個展「小寺良和展」
- ・2014年・2015年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品
- ・2022年 国際芸術祭「あいち2022」参加アーティスト



ますやま かずあき  
升山 和明 (絵画)

1967年生  
所属：サンフレンド



コラージュ作品の多くは、犬山市にかつてあった「清水屋」という総合スーパーとタクシーをモチーフとしている。「清水屋」は幼少期より今日までずっと気になる存在であり、長年モチーフとして描き続けている。色紙に描いた絵を切り抜いて貼り重ねたコラージュ技法の作品は、多彩な質感にあふれている。

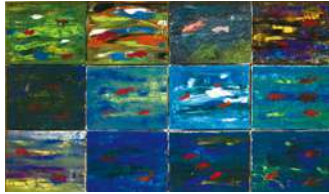
- ・2015年・2021年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品
- ・2017年～2019年 公募展「ふれあいアート展」(愛知県知事賞など受賞)
- ・2018年 「第59回小牧市民美術展」(市議会議長賞を受賞)
- ・2020年 「アール・ブリュットー日本人と自然 in 東海・北陸ブロック」 ミュゼ雪小町(新潟)
- ・2022年 国際芸術祭「あいち2022」参加アーティスト



かわい かなえ  
**河合 香菜恵** (絵画)

1992年生  
 所属：株式会社シスムエンジニアリング

16歳の時不登校になり、高次脳自閉症と診断される。その後、主治医の勧めで絵を描き始める。自然や動物が好きである。2017年より株式会社シスムエンジニアリングにて活動している。



とがり こうじ  
**戸荻 宏二** (絵画)

1989年生  
 所属：株式会社ネクステージ

画材は水彩絵具・サインペンを使用。ユーモア溢れる生き物・動物が魅力的。そして、作者の生き物への愛が伝わってくる作品が特徴。現在は絵を描く仕事に就きながら、制作活動を続けている。

・2015年・2016年 「あいちアール・ブリュット展」  
 優秀作品



やまもと よしひこ  
**山本 良比古**  
 (絵画、彫刻)

1948年—2020年



脳水腫により重度の知的障害、難聴、言語障害の三重苦を負いながらも名古屋市立菊井中学校特殊学級で川崎昂先生から画才を見出され、その才能を伸ばした。その汚れない魂の清らかな表現と透徹した原色の世界に、見る人の心を打ち、障害を持つ人たちに限りない希望を与えている。作風は精密な点描法と原色を使った鮮やかな色彩による独特のもので、「虹の絵師」「昭和の北斎」といわれている。2020年9月、74歳で生涯を終えた。

・2014年・2015年 「あいちアール・ブリュット展」  
 優秀作品



なら ともりの  
**奈良 朋紀** (オブジェ)

1978年生  
 所属：メイトウ・ワークス

メイトウ・ワークスに通って、30年ぐらい前から自宅で作っていたオブジェを仕事場まで持ってくるようになって眺めている。大好きなプラモデルを作るのにセロテープを使いだしたのが始まりで、自分なりにアレンジして現在の形になっている。気に入ったプラモデルを自分なりにセロテープでぐるぐる巻きにして楽しんでいる。

・2015年・2016年 「あいちアール・ブリュット展」  
 優秀作品



あらき まな  
**荒木 麻奈** (絵画)

1996 年生  
所属：ぴいす



幼少期より描くことが好きで思うままに描いていた。2012 年特別支援学校高等部 美術部にて本格的に活動を開始。卒業後は絵画クラブ「ぴいす」に所属。障害者雇用で働きながら絵を描き個展などの活動をしている。大好きな生き物や旅行での楽しい思い出を描くことが多い。

座右の銘は『楽しい気持ちで描く』。

- ・2014 年・2016 年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



**あべくるみ** (絵画)

2000 年生



黒い油性マジックと水性ペンを塗り重ね色を作り出しながら独学で描く世界は、半年毎にタッチが変化。好きな虫や妖精、顔などがモチーフで、画材は紙だけでなくテーブルや壁、布団、自分の手にも広がる。突如 16 歳の時、自ら 24 時間目を瞑り 1 年と 21 日間生活するも、描くことも目を瞑ったまま毎日続けた。14 歳から 20 回の個展を開催。作品には彼女の言葉を越えた思いが溢れている。

- ・2015 年・2016 年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



やまもと かずや  
**山本 和矢** (オブジェ)

1992 年生



小学校 5 年生の家庭科の授業で初めて針と糸を使ったのをきっかけに、フェルトと糸での制作に興味を持ち、それ以来フェルト作品を作り続けている。作品のそれぞれの個体のパーツには、それ自体を変形させたり、他の個体と「合体」、「分離」が自由にできるように小さなジョイント部分が作ってある。また、高等部 1 年生より油絵の教室に通い、自分の分身ともいえるキャラクターを登場させた平和な風景や楽しい冒険シーンを描いている。

- ・2015 年・2016 年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



たけうち たかゆき  
**竹内 貴之** (オブジェ)

1992 年生

所属：ノムラアートクラブ



小さな紙片を生き物に見たてて遊んでいるところから造形がスタート。制作の原点となっている紙をまるめたり、よりあわせたり、ちぎったりやぶいたりする技法が、昆虫などの立体物を形作る。生き生きと制作しながらも、鋭い観察力で様々な生き物を、立体でも平面でも素晴らしく作っている。

- ・2016 年・2017 年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



さとう ゆうき  
佐藤 祐樹 (絵画)

1988 年生  
所属：ノムラアートクラブ



小さい頃から手先が器用で、身近な魚や花をテーマに貼り絵を制作し、年数を重ねてからは色紙などを2ミリから3ミリの大きさに指でちぎり、糊付けして精緻な画像を形成している。成長する過程でのテーマは身の回りの風景や人物などの作品となり、多彩に表現するようになっている。制作にあたり、作業しているときの集中力は極めて高い。

- ・2017年・2018年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



ひらさわ こうだい  
平澤 広大 (絵画)

1997 年生



幼い頃から創作することが大好きで、自分の世界に入り込んで絵を描いたり、空き箱で何か作ったりしていた。中学生になると学校生活の窮屈さに気持ちが不安定になることが多かったが、放課後の美術部で絵を描くことが楽しみで、そのために学校に通っていた。2012年15才で初個展を開催し、中日新聞に掲載。それ以降、個展7回開催。現在では、県内外の展示に多数参加している。2023年7月には初めてニューヨークでの展示に参加。

- ・2016年・2018年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



おかだ さんたろう  
岡田 三太郎 (絵画)

1950 年生  
所属：愛厚弥富の里



30歳頃にテレビで山下清を見て絵を覚え、鉛筆で描いたり、ちぎり絵をまねたりしていた。腰を痛めて働けなくなり49歳で施設入所し、入所中は時々鉛筆で描くだけであったが、58才でグループホームに転居後、自分で絵具等を購入し、画用紙に描くようになる。朝、出勤するまでの時間や帰宅して入浴後から寝るまでの時間も使って机に向かうことがある。着物姿の女性や写真を参考にしながら風景を描くことが多い。水をほとんど使わないため、油絵のような雰囲気の特徴的である。

- ・2018年・2021年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品



はせがわ ふうま  
長谷川 楓万 (絵画)

2001 年生  
所属：Atelier Edokoro



人懐っこさからみんなに愛されるキャラクター。アートだけでなく、身近なものですぐにリズムをとりカホンやドラムもこよなく愛する。人の笑顔と楽しいことが彼の原動力。「シカク」の作品が生まれたきっかけは、カタチを捉えることが苦手だった彼の四角を描く練習から始まった。三角になってしまったり、最後の直線が始点と繋がらずなかなか四角にならなかった。そこでメトロノームで四拍子のリズムをとり1.2.3.4のリズムに合わせて四角を描いた。すると得意のリズムと相まって段々と描けるようになり、彼にしか描けない「シカク」が生まれたのだ。彼の心で奏でるリズムの世界を、作品として観ることができる「シカク」は、まるで私たちの身体をかたち作る細胞たちのようだ。

- ・2018年・2022年 「あいちアール・ブリュット展」優秀作品

